

東庄・小見川

王子大明神、年に一度の御神幸

“やまとたける”を偲ぶ

房総の地・千葉県には、大和朝廷の国土の伸張のため、香取、鹿島ともに、朝廷にかかわっている神社が多い。

東大社は王子大明神から「オオジン様」と親しまれ、香取郡東庄町宮本に鎮座され、社殿を包む森と近くにはツツジの名所・雲井岬がありともに多くの人々に親しまれている神社である。

祭神は玉依毘売命（タマヨリヒメノミコト）で、神武天皇の母神。ご夫君の鵜葺草不命尊（ウガヤフキアエズノミコト）も祀られている。

社伝では、第十二代の景行天皇（古事記、日本書紀伝承）の皇子「倭建命」（ヤマトタケルノミコト）の偉跡を偲ぶため、この地に「東宮」として社殿を造営したと伝えている。

御神幸を一般的には「お浜降り」と言い高見浦（銚子市高神＝外川浜）は第七代堀河天皇（一一〇二年）に海が荒れて多くの人が被害にあったので朝廷の命で“御神幸”により浪静まり、大漁満足、大豊作となった。

この吉日を四月八日と定め例祭を続けている。

現在は二十年ごとに執行され、平成三年に行われた第五十三回の「式年三社・銚子大神幸祭」は記憶に新

しい。

その盛業は、今後も全市民参加で古式豊かに迎えることであろう。

桜の季節の東総路に、先尊の雷神社、後尊の豊玉姫神社と東大社の三社が、銚子市椎柴小学校近くにある古墳「神逢塚」に集合して一路、芸座(げざ)や手踊り、雲助、鉄砲隊・弓矢の隊列を組んで十八カ所の関所を通り、外川浜での「お潮汲み」の神事まで、「神迎え」の敬神がなされている。

東大社境内には相撲の神として野見宿弥(ノミノスクネ)の石像、前宮司・飯田秀眞宮司の「勅題〓泉」の碑、芭蕉の句碑などがある。

遠望すれば筑波山が望め、社殿を中心にしてコンコンと湧きだすご神水の「七井」として酒次井、鳴井、染井、滝井、石井、大井、王子井が見られ、大鳥居間近に「御手洗」の清泉もある。

荘厳な境内からは、景行天皇ゆかりの「白旗宮」、「お産の宮」、子宝が授かる「菅原神社」の地に向かうことができ、多くの人たちから信仰を集める神社となっている。